

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】令和 4 年 7 月 21 日(2022.7.21)

【公開番号】特開 2021-22897(P2021-22897A)

【公開日】令和 3 年 2 月 18 日(2021.2.18)

【年通号数】公開・登録公報 2021-008

【出願番号】特願 2019-140035(P2019-140035)

【国際特許分類】

H 0 4 N 5/232(2006.01)

G 0 6 F 3/01(2006.01)

G 0 6 F 3/04842(2022.01)

G 0 6 F 3/0346(2013.01)

G 0 3 B 15/00(2021.01)

G 0 3 B 17/20(2021.01)

10

【F I】

H 0 4 N 5/232190

G 0 6 F 3/01 510

G 0 6 F 3/0484120

G 0 6 F 3/0346423

G 0 3 B 15/00 Q

G 0 3 B 17/20

20

【手続補正書】

【提出日】令和 4 年 7 月 11 日(2022.7.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

30

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

表示手段へのユーザーの視線を検出する検出手段と、

前記検出手段により検出した視線に応じて、選択位置を変更するように制御する制御手段であって、注視があった場合に、注視の視線位置に基づいて前記選択位置を変更するように制御する制御手段と、を有し、

前記制御手段は、特定の位置と前記検出手段により検出した視線位置との位置関係に応じて、注視と判定する期間を変更するように制御する、  
ことを特徴とする電子機器。

【請求項 2】

前記特定の位置と前記検出手段により検出した視線位置との距離が大きいほうが、前記注視と判定する期間が小さい、  
ことを特徴とする請求項 1 に記載の電子機器。

40

【請求項 3】

前記特定の位置は、前記選択位置である、  
ことを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の電子機器。

【請求項 4】

前記制御手段は、  
前記検出手段により検出した視線位置が前記選択位置から第 1 の距離にある第 1 の位置である場合には、前記注視と判定する期間を第 1 の期間に変更し、

50

前記検出手段により検出した視線位置が前記選択位置から第 1 の距離より遠い第 2 の距離にある第 2 の位置である場合には、前記注視と判定する期間を前記第 1 の期間よりも短い第 2 の期間に変更する、

ことを特徴とする請求項 3 に記載の電子機器。

【請求項 5】

前記特定の位置は、前記表示手段に表示される画像から特定の被写体が検出された位置である、

ことを特徴とする請求項 1 に記載の電子機器。

【請求項 6】

前記制御手段は、

前記検出手段により検出した視線位置が、前記特定の被写体が検出されていない第 3 の位置である場合には、前記注視と判定する期間を第 3 の期間に変更し、

前記検出手段により検出した視線位置が、前記特定の被写体が検出されている第 4 の位置である場合には、前記注視と判定する期間を前記第 3 の期間よりも短い第 4 の期間に変更する、

ことを特徴とする請求項 5 に記載の電子機器。

【請求項 7】

前記検出手段により検出した視線位置が、特定の被写体が検出されている位置である場合に、前記制御手段は、前記検出手段により検出した視線位置が、前記特定の被写体が検出されていない位置である場合と比べて、前記注視と判定する期間を短くする、

ことを特徴とする請求項 3 または 4 に記載の電子機器。

【請求項 8】

前記特定の被写体は顔である、

ことを特徴とする請求項 5 から 7 のいずれか一項に記載の電子機器。

【請求項 9】

前記視線位置が前記表示手段に表示された顔の異なる部位間で移動する場合に、前記制御手段は、前記視線位置が前記顔の同じ部位内で移動する場合と比べて、前記注視と判定する期間を短くする、

ことを特徴とする請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の電子機器。

【請求項 10】

前記視線位置が前記表示手段に表示された異なる顔間で移動する場合に、前記制御手段は、前記視線位置が前記表示手段に表示された同じ顔内で移動する場合と比べて、前記注視と判定する期間を短くする、

ことを特徴とする請求項 1 から 9 のいずれか一項に記載の電子機器。

【請求項 11】

前記制御手段は、前記表示手段に表示された画像の画角に基づいて、前記注視と判定する期間を変更する、

ことを特徴とする請求項 1 から 10 のいずれか一項に記載の電子機器。

【請求項 12】

前記制御手段は、前記選択位置と前記注視の位置との距離が大きい程、前記注視と判定する期間を短くする、

ことを特徴とする請求項 1 から 11 のいずれか一項に記載の電子機器。

【請求項 13】

ユーザーの操作を受け付ける操作手段をさらに有し、

前記制御手段は、前記操作手段に対する操作に応じて前記選択位置を変更する、

ことを特徴とする請求項 1 から 12 のいずれか一項に記載の電子機器。

【請求項 14】

前記注視があった場合とは、前記視線位置の移動量が所定の閾値未満であるという条件が少なくとも満たされている場合である、

ことを特徴とする請求項 1 から 13 のいずれか一項に記載の電子機器。

10

20

30

40

50

## 【請求項 15】

表示手段へのユーザーの視線を検出する検出ステップと、  
前記検出ステップにおいて検出された視線に応じて、選択位置を変更するように制御する  
制御ステップであって、注視があった場合に、注視の視線位置に基づいて前記選択位置を  
変更するように制御する制御ステップと、を有し、  
前記制御ステップでは、特定の位置と前記検出ステップにおいて検出された視線位置との  
位置関係に応じて、注視と判定する期間を変更するように制御する、  
ことを特徴とする電子機器の制御方法。

## 【請求項 16】

コンピュータを、請求項 1 から 14 のいずれか 1 項に記載された電子機器の各手段として 10  
機能させるためのプログラム。

## 【請求項 17】

コンピュータを、請求項 1 から 14 のいずれか 1 項に記載された電子機器の各手段として  
機能させるためのプログラムを格納したコンピュータが読み取り可能な記憶媒体。

## 【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

20

本発明の一態様は、  
表示手段へのユーザーの視線を検出する検出手段と、  
前記検出手段により検出した視線に応じて、選択位置を変更するように制御する制御手段  
であって、注視があった場合に、注視の視線位置に基づいて前記選択位置を変更するよう  
に制御する制御手段と、を有し、  
前記制御手段は、特定の位置と前記検出手段により検出した視線位置との位置関係に応じ  
て、注視と判定する期間を変更するように制御する、  
ことを特徴とする電子機器である。

30

40

50